水俣環境アカデミア

Minamata Environmental Academia

ごあいさつ

水俣市では、1970年代から大学の設立や誘致が検討されてきました。2010年度に立ち上げられた「みなまた環境まちづくり研究会」の中に「教育・研究機関分科会」が設置され、再び大学設立構想の検討が始められました。その後、市民、大学教員、国及び関係機関、水俣市事務局の各委員から成る「環境大学・環境学習円卓会議」の中で、高等教育・研究機関の設立について継続的に検討され、平成28年4月に「水俣環境アカデミア」の設立に至りました。

水俣環境アカデミアは、「水俣の地域資源と地域内外をつなぐ拠点」として位置づけられており、水俣地域と国内外の皆様を「つなぐ」ためのコーディネートを行っています。それは、水俣地域の知識・知恵・教訓という「水俣の知」を学び、伝え、現代的な意義を考えると共に、新しい考え方や取組みを積極的に受け入れることによって、次世代のための新たな価値を創り出すためです。

具体的な事業として、シンポジウムや市民公開講座といった地域住民が新たな「知」に触れる機会の提供、国内外からの研修の受け入れや遠隔講義などを行ってきました。これらの事業は、次世代を担う人材を育成し、多様な人材の行き来による交流人口を増加させています。また、研修の中で、市内企業の視察を取り入れたり、技術移転を目的とした研修参加者との意見交換会を行ったりするなど、市内企業が有する環境技術の国内外への発信にも取り組んでいます。このような取組みを積み重ねていくことが、地域を活性化させ、持続可能な地域社会の形成につながっていくものと確信しています。

今後も、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の考え方に基づき、持続可能な地域社会の実現に向けて、水俣環境アカデミアの取組みを進めてまいりますので、皆様の御支援・御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2019年3月
水俣市長　髙岡　利治

これまで水俣地域では、行政、教育機関、企業や市民団体により様々な環境に関わる事業、学習、研究など幅広い活動が進められてきました。最近では九州内にとどまらず全国各地から水俣で「環境」を学ぶ大学生、大学院生、外国人学生も増加し、水俣での学びをさらに深め、これからの地域づくりに活かしたい、地域社会の創造に結び付けたいなどの要望が高まってきました。

水俣環境アカデミアは、地域社会の将来を担う人材の育成に資する学習機関としての役割を大きな使命と考え、これまでに水俣地域で展開されてきた様々な活動、取組みを体系化し、広く国内外の学生、大学院生、行政機関職員あるいは環境関連技術者などに提供する学際的な「学び」の場を構築します。

水俣環境アカデミアは、未来を見据えた展望をもとに、人々の暮らし、地域社会のあり方などについて「考える」場を広く人々と共有します。また、世代、立場を超えた多様な人々との対話、議論を通じ、地域社会の持続的な発展につながる新たな方策を見出し、それらを「実践する」場としても機能していきます。

水俣環境アカデミアは、環境対策技術の開発、普及に関する情報発信拠点として、また、環境管理施策、行政施策を学ぶ場にとどまらず、限られた地域資源の中で多くの人々が交流を通じ、知恵や知識を出し合い、それぞれの個性や強みを活用し協働していくことを目指します。こうした協働作業を通じ、地域が培ってきた様々な技能技術が次世代に引き継がれ、新たな価値を「創造」し、地域、全国そして世界の人々との「環（わ）」がさらに拡充していくことを目指します。

皆様の一層の御支援と積極的な参画をお願い致します。

2019年3月
水俣環境アカデミア所長　古賀　実

水俣環境アカデミアの理念

「知」の連携拠点として、「水俣の知」と国内外の「知」をつなぎ、高等教育・研究の促進及び産学官民の連携により、新たな「知」を創造し、世界が直面する様々な課題に対する解決策を発信します。

地域への貢献

- 地域住民に対し、外部の「知」との出会いの場を提供することにより、既成概念にとらわれず、自ら考え、自ら学ぶことのできる人材を育成します。
- 地域ニーズと国内外の学生や研究者といった外部の「知」をつなぎ、研究を推進することにより、地域課題解決のための具体的なアイデアや手法を提示します。
- 各種事業を通して、水俣地域の教育研究活動、まちづくり、しごとづくりを推進し、持続可能な地域社会の実現に貢献します。

世界への貢献

- 水俣地域の知識・知恵・教訓を集約し、持続可能な地域社会の実現に向けた解決策を世界に発信します。
- 水俣地域を研究フィールドとする学生や研究者等を積極的に受け入れ、水俣の地域課題と研究テーマをつなぐための提案を行います。
- 水俣の人材や自然・文化・産業などの地域資源を次世代を担う人材の育成に活用するために、教育活動の積極的な誘致を行います。

水俣環境アカデミアの事業　地域との連携

市民公開講座

人材育成事業の一環として、市民への学習機会の提供を目的とし、各大学及び研究者等と連携し、住民の生活に身近で役に立つようなテーマでの講演会を開催しています。

環境、健康、食育、農業等、幅広い分野の講座を行っており、講座では、講義だけではなくワークショップを行うなどして、参加者に積極的に講座に参加していただいています。

かつて水銀の産出量世界2位の水銀鉱山があった、スロベニア共和国イドリア市の高校教師による講座では、イドリアの水銀鉱山の過去と現在について学びました。

幼児食について学ぶ講座では、調理実習も行い、親子での参加もありました。

■これまでに実施した講座（平成31年3月現在）

- 環境にやさしい暮らし方～エコダイアリー（※）から私たちの生活を見つめ直す～
- 生活習慣病対策は先手必勝～恐ろしい病気を恐ろしくない病気にするためには～
- 地中熱利用について
- 持続する幸せな地域を創るカギを探ろう
- 水俣市と慶應義塾大学の連携活動
- 食生活指針から健康増進を考える～健康増進への近道はあるの？ないの？
- 子どもの食生活と効果的な食育について
- アンガーマネージメント
- 家電リサイクルと資源循環
- エコダイアリーを活用した暮らしの見える化
- イドリアの水銀鉱山-過去と現在
- 安全安心でおいしい野菜
- 幼児を元気にするスピード朝ごはん～たった3つを入れるだけ～
- スポーツクラブのマネジメント
- 子どもの発育発達とジュニア期のトレーニング

（※）エコダイアリー…毎月の電気・ガス使用量等を毎月記録し、家庭から排出される二酸化炭素を調べる水俣市の取組み。

ジュニアサイエンスセミナー

環境モデル都市水俣の将来を担う小中学生に対し、大学教授や研究者の指導の下、各学校で行う環境学習よりもさらに専門的な実験・実習を行い、それらを通じて知見を広めることを目的として行っています。

毎年夏休みに開催し、参加した子どもたちからは、自由研究に役立てたい、今日学んだことについて、もっと学んでみたいといった感想があがっています。

水俣環境アカデミアの事業　地域との連携

水俣環境アカデミア シンポジウム

地域住民や行政関係者等に対して、新たな「知」に触れる機会を広く提供することを目的として、シンポジウムを開催しています。

シンポジウムでは、著名な講師による基調講演と、多様な分野のパネリストによるパネルディスカッションを行い、地域住民にSDGsの考え方に基づく持続可能な地域社会づくりについて学ぶ機会を提供しています。

水俣市・水俣高校・国水研との三者協定による支援体制

水俣市、熊本県立水俣高等学校、国立水俣病総合研究センター（国水研）との間で、水俣高校の活動を支援するための連携・協力に関する協定を締結しています。

水俣市と国水研が連携して、水俣高校の活動における各種研究発表、世界に通用する次世代の人材育成などを全面的に支援しています。

遠隔講義

テレビ会議システムを利用して、遠隔講義を実施しています。これまで、水俣高校と慶應義塾大学、水俣市と慶應義塾大学、台湾の南栄科技大学と水俣市など、さまざまな相手と遠隔講義を行ってきました。

遠隔講義により、水俣地域が持つ知識・知恵・教訓を広く発信しています。

今後は、海外の大学と地元高校生との遠隔ワークショップ等も計画しております。

産学官民連携事業 木育ワークショップ

地域木材を核として産学官民のつながりを形成し、水俣高校の研究活動を支援するとともに、森林保全など持続可能な地域づくりについて学ぶ機会を提供しています。

高校生は、専門家の講義を受けた後、水俣地区建具組合の協力を得ながら木製家具を製作し、製作した木製家具は、水俣環境アカデミアに寄贈されています。

水俣環境アカデミアの事業　研修受け入れ

環境省環境調査研修所水俣研修

環境省環境調査研修所の機能の一部が移転し、水俣環境アカデミアは、環境省環境調査研修所水俣研修事業事務局となっています。日本の環境保全に係る人材育成の中核的機関として、各種環境保全に関する研修の実施に取り組んでいます。

研修の中では、環境省職員と水俣市職員によるワークショップ等も行っています。

慶應義塾大学とASEAN諸国の大学によるフィールドワーク

水俣の過去と今日を学び、これからの環境共生型の地域振興を考えることを目的として、慶應義塾大学とASEAN諸国の留学生が水俣市を訪問する研修を受け入れています。

本研修では、水俣高校とのワークショップ、水俣市内でのフィールドワーク、アカデミアでの講義及び成果発表会が行われています。

JICAタンザニア研修生水俣研修

JICA関西タンザニア研修生水俣研修の受け入れを行いました。この研修では、タンザニア人行政官が水俣を訪れ、水俣の取組みについて学びました。

研修の中では、フィールドワーク、地域住民によるごみ分別収集の見学や、水俣高校との交流（お互いの取組み紹介やディスカッション）も行いました。

各種連携協定

「知」の連携を進め、新しい価値を創造し、まちづくり及び教育・研究活動の発展を図るため、国内外の大学や研究機関と連携協定やMOU（了解覚書）を締結しています。このような連携により、研修の受け入れ等を行っています。

■締結先

- 熊本県立大学
- 熊本大学
- 崇城大学
- 国立水俣病総合研究センター
- 東洋大学（生命環境科学研究センター）
- 慶應義塾大学（環境情報学部、総合政策学部、政策・メディア研究科）
- 九州大学都市研究センター
- 南栄科技大学（台湾）
- 国立台北科技大学（台湾）
- 熊本県立水俣高等学校（水俣市及び国立水俣病総合研究センターとの三者協定）

このほか、ベトナムの日越大学インターンシップ学生受け入れ、上智大学水俣研修等、国内外から各種研修の受け入れを行っています。

水俣環境アカデミアの事業　国際貢献事業

さくらサイエンスプラン水俣研修

日本科学技術振興機構（JST）の委託事業として、アジア地域の青少年を水俣市に誘致し、水俣の教訓と地域の現状及び課題を理解し、地域社会の持続可能性を考えることをテーマとして、約10日間の研修を実施しています。

研修では、地域人材による環境に配慮した取組み等をフィールドワーク形式で学ぶ講義、小学校での異文化交流事業や、地域住民との交流を目的としたホームステイやランチミーティング等も行っています。

水俣条約への貢献

水銀に関する水俣条約の採択以降、環境省等と連携し、数多くの事業を実施しています。

これまでに、水俣条約健康分野のWHOワークショップやインドネシア研修生のASGM（小規模金採鉱）研修等が開催されました。また、水俣条約締約国会議（COP）会場付近に環境省が設置するブースの展示物（フォトリポート、ビデオメッセージ等）の作成協力も行っています。

今後も水俣環境アカデミアを中心として更なる連携が予定されています。

水銀の大気連続観測に関するアジア太平洋地域専門家ワークショップ

米国環境保護庁及び国立環境研究所が進めているワークショップを受け入れました。

アジア太平洋地域において、大気中水銀の自動連続観測に関わる専門家のネットワークを構築する初の試みで、大気中水銀測定法の標準化等に向けた議論が行われ、その成果は第13回水銀国際会議で発表されました。

国連機関との連携

国連機関と連携した事業を実施しています。

国連環境計画（UNEP）の主催により、アジア地域における水俣イニシャルアセスメントの教訓に関するワークショップが開催されました。

また、環境省と国連工業開発機関（UNIDO）の主催により、途上国の大使館職員等を対象として、日本から途上国へ向けた投資や技術移転の促進を目的とした視察プログラムも実施されました。

水俣環境アカデミアの活用について

水俣環境アカデミアは、3ページに記載の「理念」に基づき、産学官民の連携促進による次世代人材育成、地域活性化を目指しています。

これまでにも、水俣環境アカデミアが主催する事業のほか、9ページに記載の通り、様々な団体による産学官民連携の事業が行われてきました。

水俣地域内外の人と人とがつながりあうことにより、地域課題解決のための具体的なアイデアが生まれ、ひいては、それが持続可能な地域社会を作り出していくことにつながっていくものと考えています。

水俣環境アカデミアでは、上記目的を達成するため、国・県・市及び大学等の高等教育研究機関などが主催して事業を実施する場合には、施設使用料を減免しています。

水俣地域において、そのような事業を企画される際は、以下の手順により、水俣環境アカデミアの活用を御検討ください。

■活用の手順

1. 事業計画の検討
2. 関連する事業担当課との調整
3. 事業申請書および減免申請書の提出
4. 事業の実施

事業申請書および減免申請書の様式は、以下のホームページからダウンロードできます。

■水俣環境アカデミアホームページ

https://www.city.minamata.lg.jp/list01147.html

産学官民の連携により
水俣環境アカデミアで開催された事業

防災クロスロードゲーム体験

平成30年12月、熊本県立大学地域連携・研究推進センターの主催で、熊本県立大学CPDプログラム「防災・減災ではじめるまちづくり講座～防災クロスロードゲーム体験～」が開催されました。「クロスロードゲーム」とは、阪神淡路大震災での実際の声をもとに制作されたカードゲーム方式の防災体験ゲームです。

本事業では、熊本地震の経験を活かしつつ、熊本県立大学と水俣高校が連携して、防災・減災について学ぶワークショップ等が行われました。

熊本テックプランターミートアップ

平成29年11月、「熊本テックプランターミートアップ」が開催されました。「熊本テックプランター」は、自然共生型産業などの成長産業の創出につながるよう、若い起業家を発掘・育成することを目指す創業応援プログラムです。

本事業は、技術をもつベンチャー企業や研究者と、地元の事業者が出会い、地域が抱える課題に対して、技術をどのように活用するかを共に考えることを目的として開催されました。

創作童話ワークショップ

平成29年度及び平成30年度、水俣市立図書館の主催で、「創作童話ワークショップ」が開催されました。

「創作童話ワークショップ」は、市内の小中学生を対象に、物語を創造する力を育むことを目的として、童話作家の先生を講師に迎え、実施されています。参加者は、物語の創作に挑戦しました。

ローカル・ビジネス・サミット

平成28年度及び平成29年度、「ローカル・ビジネス・サミット」が開催されました 。

本事業は、地域社会や未来の世代が喜ぶ持続可能なビジネス・地域経済の在り方について考えること、地域の人も応援したくなる経営の実践者やその理解者を増やすことを目的として開催されました。サミットでは、市外の先進的な事業者による基調講演や、市内の事業者のビジネスアイデアの発表などが行われました。

水俣環境アカデミア施設概要

開館時間　9時～19時
休　　館　土日祝日および年末年始（12月29日～1月3日）

■施設使用料

	区分	広さ（㎡）	使用料（1時間あたり）	使用料（1日あたり）
1階	ラウンジ	118	620円	-
	ホール	84	410円	-
2階	ホール	84	410円	-
	調理室	40	410円	-
	休憩室1	20	110円	-
	休憩室2	22	110円	-
3階	研究スペース	140（約36席）	620円	4,960円
	研究スペース（ブロック）	4	110円	880円
	試料処理室	55	260円	2,080円
4階	セミナー室1	42（約12席）	210円	1,680円
	セミナー室2	45（約21席）	210円	1,680円
	セミナー室3	123（机使用：約54席、いすのみ：約100席	620円	4,960円

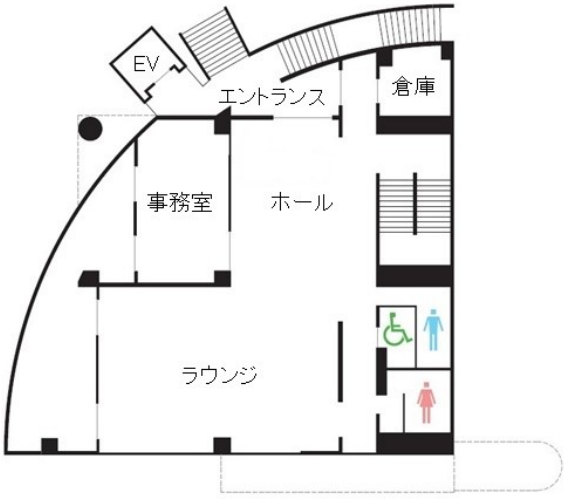
■器具使用料

	区分	使用料（1回につき）
2階	シャワー室	110円
3階	ドラフトチャンバー	1,020円
	放送機材一式	510円
	パソコン機器一式	510円
	プロジェクター一式	510円
	テレビモニター	510円

シャワー室利用の際、タオル、石けん等は、各自御用意ください。

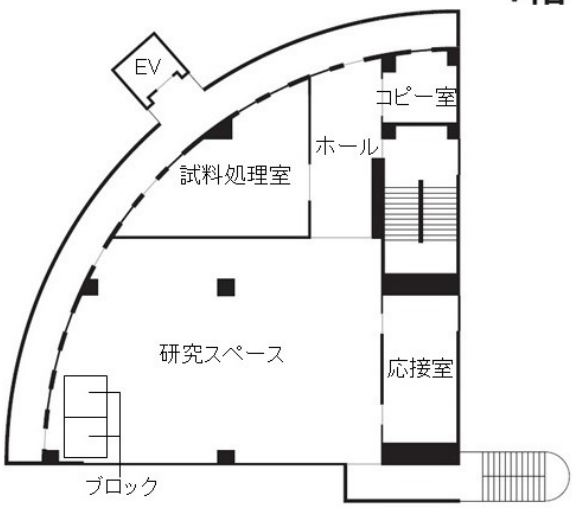
■冷暖房使用料

区分	使用料（1時間あたり）
冷暖房	310円

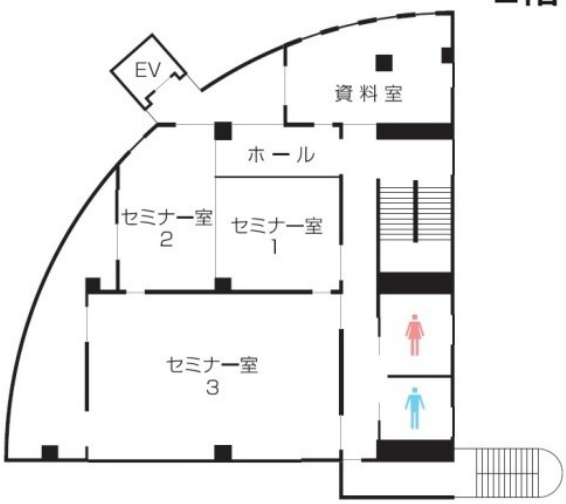


1階

2階



3階



4階

アクセス

アクセス

■東京から

羽田空港（飛行機約2時間）→福岡空港（地下鉄約5分）
→博多駅（新幹線約70分）→新水俣駅（タクシー約5分）→水俣環境アカデミア

■大阪から

新大阪駅（新幹線約3時間50分）→新水俣駅（タクシー約5分）
→水俣環境アカデミア

■車利用

南九州西回り自動車道水俣インターチェンジから約5分

周辺地図

1階　ラウンジ

3階　研究スペース

4階　セミナー室3

■問い合わせ先
水俣市総務企画部企画課
　水俣環境アカデミア

〒867−0023
熊本県水俣市南福寺6−1
TEL：　0966−84−9711
FAX：　0966−84−9713
E-mail：　academia@city.minamata.lg.jp